



平成 30 年 1 月 26 日

古墳時代の埋葬原理と王権研究 —岡大考古学の学際的研究①—

豪族ら有力者の墓である古墳。岡山県でも数多くの古墳が当時の面影を残したまま、歴史を物語っています。

大学院社会文化科学研究科の清家章教授は、人類学・考古学・文献史の知識を組み合わせ、古墳に埋葬される人々の関係や首長位がどのような人物間で継承されるかを検討しました。その結果、古墳時代中期以降は父系親族の中で首長位が継承されていることが明確になってきました。

<導入>

古墳には複数の人物が埋葬されていました。それらの人々の関係が何であるのか、夫婦なのか、キョウダイなのか、親子なのか。大学院社会文化科学研究科の清家教授は研究を重ね、それらの関係がキョウダイあるいは親子であることを明らかにしました。しかし、そこから派生して、首長や王の位がどのように引き継がれるのかが課題となっていました。

<背景>

清家教授は、人類学的研究と考古学的研究を組み合わせることにより、古墳時代首長の性別割合を明らかにしてきました。それによると、前期（3世紀中頃～4世紀後葉）は女性首長が3割～5割程度存在し、双系的継承（父母双方の血統を認める継承）が行われていることが明らかになりました。また古墳時代中期（4世紀後葉～5世紀）になると、首長位はほぼ男性が独占するようになり、父系的継承が始まったことを明らかにしています。

次の課題として、男性から男性へ首長位が引き継がれる時に、その前首長と新首長の関係が問われることとなりました。

<研究内容、業績>

この問いに対して、人類学・考古学・文献史の知識を組み合わせ、検討を行いました。先に古墳はキョウダイで埋葬される事例が多いと述べていますが、複数の人物が埋葬される場合、その格差は大きくない事例があることが他の研究者によって指摘されています。キョウダイの格差は小さく、キョウダイはどちらも首長位を継承しうることが分かっており、キョウダイの子どもたちも首長位継承候補者になり得ます。ですから首長位は親子間・キョウダイ間・従兄弟間・叔父甥間でも継承されうることになります。また、首長位を継がなかった有力な親族は独立して墳墓を営むこともあることが考古学・文献史料から分かっています。文献史の研究成果では、平安時代のことですが、広い父系親族から族長の地位が継承されていることが明らかになっています。

**PRESS RELEASE**

これらの成果を考えると、古墳時代中期以降は父系親族の中で首長位が継承されていることが明確になってきました。

<展望>

この研究は、首長位の継承にとどまるものではありません。さらに発展すると古代における大王や天皇の地位継承のあり方を明らかにすることも期待できます。本研究を中心に図書（一般書）を執筆し、一般に公開する予定（2018年4月刊行予定）です。

<略歴>

1967年生まれ。大阪大学大学院前期課程修了。専門分野：日本考古学。

経歴等

1998年4月 大阪大学文学部助手（埋蔵文化財調査室・考古学研究室兼任）。

2003年4月 高知大学人文学部助教授に転任。

2007年4月 同 教授に昇任。

2008年4月 高知大学教育研究部人文社会科学系 教授（人文学部専任担当）。

2015年4月 岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授に転任。

<語句説明・用語解説>**論文情報**

清家 章（印刷中）「首長系譜分立試論－王墓築造地域変遷の理解のために－」『待兼山考古学論集』Ⅲ 大阪大学考古学研究室

清家 章（印刷中）「古墳時代の首長位継承-女性首長論を中心に-」『法制史研究』67号 法制史研究会

<お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科

教授 清家 章

（電話番号）086-251-7457

（FAX番号）086-251-7457